



一般社団法人日本メディア英語学会
Japan Association for Media English Studies



JAMES Newsletter

No. 150

November 29th, 2025

目次

1. 前 Newsletter 編集長 杉村寛子会員による記念寄稿

「ことばに溶け込む挿絵たち— Quentin Blake と Tony Ross」

2. 日本メディア英語学会（JAMES）第 15 回（通算第 67 回）年次大会を終えて

3. 第 15 回 日本メディア英語学会 定時社員総会について

1) 第 15 回定時社員総会開催のご報告と御礼

2) 学会誌の電子ジャーナル化にともなう投稿規定の改定および会誌公開規定の制定

4. 東日本地区、及び、西日本地区研究例会 活動報告および開催予定

◆第 107 回 東日本地区研究例会・第 21 回 英語教育・メディア研究分科会

◆西日本地区、メディア & トランスレーション研究分科会、ビジネス英語文化研究分科会の
3 団体共催による講演会

タイトル：翻訳者の役割のパラダイムシフト：生成 AI 時代におけるニュース翻訳の変容

講演者：西山誠慈氏（ウォール・ストリート・ジャーナル日本版編集長）

5. 研究分科会 活動報告および開催予定

◆メディア英語談話分析研究分科会

第 84 回、及び、第 85 回のご報告

第 86 回メディア英語談話分析研究分科会（12 月 6 日開催）のご案内

◆新語・語法研究分科会

第 167 回、及び、第 168 回新語・語法研究分科会のご報告

第 169 回新語・語法研究分科会（2026 年 2 月 14 日開催）のご案内

6. 新入会員紹介

7. 2026 年度新刊テキスト、及び商品・紹介（賛助会員 50 音順）

1) 金星堂

2) 三修社

3) 成美堂

4) 語学学習支援システム CaLabo® EX.（チエル株式会社）

5) 日本経済新聞社の英文メディア「Nikkei Asia」

~~~~~

# 1. 前 Newsletter 編集長 杉村寛子会員による記念寄稿

## ことばに溶け込む挿絵たち— Quentin Blake と Tony Ross

杉村 寛子

何でも好きなことを書いても良いという、大変ありがたいことばをいただいたので、この機会に大好きな二人のイギリス人挿絵画家のことを思いつくままに書いてみようと思う。

Quentin Blake (1932-) [ブレイク]は九十歳を超えてなお旺盛な創作ぶりで、この夏 *Quentin Blake's Fantastic Journeys: Fanciful Drawings and Surprising Situations* を上梓している。鉛筆のスケッチに似て、一見無造作に線を重ねるように描かれたブレイクの絵には得も言われぬ深い味わいがある。彼のキャリアは十六歳のとき *Punch* (すでに廃刊) に掲載された挿絵に始まる。その後、同誌に加え、*The Spectator* の表紙や挿絵を多く描き続けた。児童書の挿絵も多くあるが、最もよく知られているのはやはり Roald Dahl (1916-1990) [ダール]の *Charlie and the Chocolate Factory* (1964) に寄せたものであろう。1999 年に“Children's Laureate”に任命されたこともあり、児童文学との結びつきが強いイメージを持つブレイクだが、BBC 2 の“Quentin Blake – The Drawing of My Life”に拠ると、かつて Penguin Books から出版された Kingsley Amis (1922-1995) や Evelyn Waugh (1903-1966) らの小説の表紙も手がけていた。同動画の中で、ブレイクは挿絵の役割を“The fundamental collaboration is the collaboration with words, the collaboration with the story.”と語っているが、このことばはイギリスのコメディアンであり、児童文学作家である David Walliams (1971-) [ウォリアムズ]の物語に描かれた挿絵にも通じる。例えば *Mr. Stink* (2009) では悪臭を漂わせるスティンク氏の臭いについて“Have you ever wondered what a bad smell looks like? It looks like this…”と語り手が読者に問いかけるが、ブレイクが挿絵でこれに答えている。

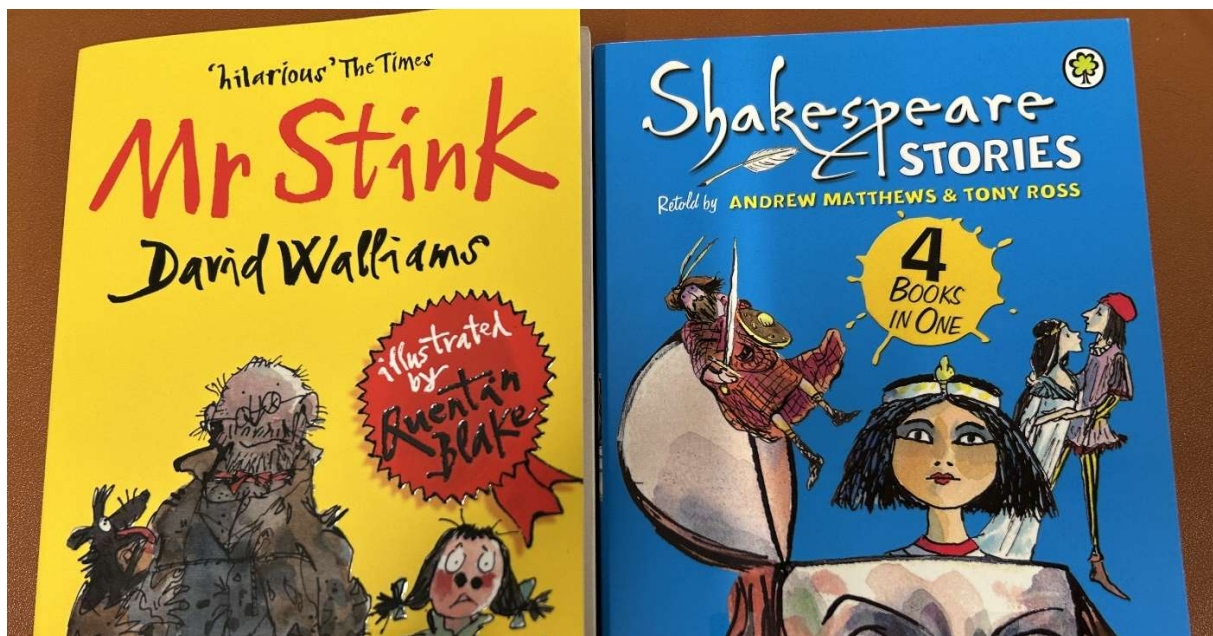
Tony Ross (1938-) [ロス]と引き合わせてくれたのがウォリアムズである。ウォリアムズの三作目 *Billionaire Boy* (2010) からおそらく *Mega Monster* (2021) まで表紙および挿絵を担当した Ross は、ウォリアムズがくり広げる、笑いあり、ときに涙ありの物語世界を理解し、その「ことば」にうまく挿絵を溶け込ませている。Ross もまたダールの作品に挿絵を描いている。2022 年 5 月 21 日付 *The Guardian* 掲載のインタビュー記事で、ダールは決して挿絵画家に命令するようなタイプではなく、思い通りに仕事をさせてくれたと述懐している。ほかに Orchard Books から出版されている William Shakespeare のリトルド版に描かれた表紙も挿絵もなかなかの力作である。ほとんどすべての頁に Ross の挿絵があり、まるで絵本を読んでいるかのように楽しい。物語や小説の挿絵は、作者の指示に忠実に描かれることもあるであろうし、挿絵画家が物語や小説のことばを咀嚼し、その独自の解釈が挿絵を通して自在に展開されることもあるであろう。いずれにせよ、挿絵は虚構の世界を伝える役割の一端を担う、重要なメディアである。読者は挿絵も含めて、その世界に浸るため、テキストと挿絵の関係を探ることもひとつの研究課題になるのではないかと考える今日この頃である。

## 引用文献

1. Blake, Quentin. *Quentin Blake's Fantastic Journeys: Fanciful Drawings and Surprising Situations*. Walker Studio, 2025.
2. Matthews, Andrew. *Shakespeare Stories*. Orchard Books, 2014.
3. Walliams, David. *Mr. Stink*. HarperCollins, 2009.

参考サイト（以下、すべて 2025 年 8 月 27 日にアクセス）

1. Quentin Blake オフィシャルサイト <https://quentinblake.com/>
2. “Quentin Blake – The Drawing of My Life” [2021 年 12 月に BBC2 にて放送]（現在 BBC iPlayer (<https://www.bbc.co.uk/programmes/m0012xpw>) では視聴できないため、YouTube 版に拠る）[https://www.youtube.com/watch?v=flf64WFaD\\_E](https://www.youtube.com/watch?v=flf64WFaD_E)
3. Tony Ross 書籍情報（Andersen Press）  
<https://www.andersenpress.co.uk/contributors/tony-ross/>
4. Tony Ross 関連記事（Wales Online）[https://www.walesonline.co.uk/news/wales-news/horrid-henry-illustrator-tony-ross-7728385?utm\\_source=chatgpt.com](https://www.walesonline.co.uk/news/wales-news/horrid-henry-illustrator-tony-ross-7728385?utm_source=chatgpt.com)
5. Tony Ross についての説明（Britannica Kids）  
<https://kids.britannica.com/kids/article/Tony-Ross/605841>
6. Tony Ross インタビュー記事（The Guardian）  
<https://www.theguardian.com/lifeandstyle/2022/may/21/this-much-i-know-tony-ross-i-wasnt-at-all-like-horrid-henry-when-i-was-a-boy>



（書店や図書館で手に取っていただければ、より深く味わっていただけます）

## 2. 日本メディア英語学会（JAMES）第 15 回（通算第 67 回）

### 年次大会を終えて

#### ◆愛知淑徳大学での年次大会を終えて

運営委員長 福本明子（愛知淑徳大学）

このたびは、まだまだ暑さも残る名古屋までお越しいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで無事に年次大会を終えることができ、ほっとしております。これもひとえに、ご協力くださったみなさまのお力添えによるものと、心より感謝申し上げます。

開催校の秋の行事や入試日程の都合により、例年よりもかなり早い日程で年次大会の開催となりました。ご多忙の中、前期学期末というおそらくもっともお忙しく、お疲れであろう時期に理事会を開催していただいたり、例年なら年次大会当日に開催している定時社員総会を別日程でオンライン開催していただいたりと、例年とは異なる対応をお願いすることとなりましたが、理事の先生方には柔軟にご対応いただき、心より御礼を申し上げます。

発表や参加申し込みの締切も早まったため、発表者や参加者が集まるのかどうか、大会運営委員一同、心配をしておりましたが、それは全くの杞憂で終わりました。知的好奇心を刺激する基調講演や研究発表の数々に、研究へのモチベーションが大いに高まりました。

そして何より、準備から当日の運営まで共に走ってくださった運営委員の先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。5 名と少人数ではありましたが、まさに精鋭ぞろいで、平日夜 8 時から運営委員会も非常に機能的に進み、準備から大会当日まで滞りなく運営することができました。

至らぬ点多々あったかと存じますが、温かいお声がけをいただき、ありがとうございました。昼食交流会では司会者の無茶ぶりによる席替を、お弁当や栗きんとんと共に、楽しんでいただけたようで、準備した甲斐がございました。また数年後、名古屋で開催できる機会がございましたら、どのようなおもてなしができるのか、アンテナを張って備えてまいります。ぜひまた、中部地区へお越しください。

運営委員長 福本明子（愛知淑徳大学）

年次大会委員の皆さまお一人お一人のご尽力に、心より感謝申し上げます。

-----



(2025 年 9 月 28 日(日)、年次大会にて、「メディアと言葉のバリエーション」という演題  
のご講演をいただいた鹿児島大学名誉教授の太田一郎先生を囲んで)



<愛知淑徳大学星が丘キャンパス 5 号館 にて> (写真提供 福本明子会員)

### 3. 第 15 回 日本メディア英語学会 定時社員総会について

#### 1) 第 15 回定時社員総会開催のご報告と御礼

業務執行理事（副会長）・本部事務局長 畠山由香子

第 15 回定時社員総会は、2025 年 10 月 26 日（日）14:00 より、完全オンラインにて無事開催されました。今回は、初めて年次大会とは別日に定時社員総会を実施いたしました。総会では、代表理事（会長）の山内先生が議長を務められ、業務執行理事（副会長）で総務委員長の吉原先生が進行を担当されました。また、税理士の西浦氏より経理関係の報告をいただきました。

第 1 号議案から第 4 号議案まで、すべての議案が承認されました。議案書は学会ウェブサイト【<https://james.or.jp/taikai/4158>】でご覧いただけます。ご協力を賜りました会員の皆様に心より御礼申し上げます。

初めて尽くしとなった今回の定時社員総会の開催にあたっては、会長の山内先生、そして副会長で総務委員長の吉原先生には、多大なるご尽力を賜りました。また、前本部事務局長で現監事（業務監査）の南津先生からは、これまでの豊富なご経験と知見に基づき、的確なご助言をいただきました。今回は、本部事務局長という「裏方」の立場から、記録を兼ねて、定時社員総会開催に至るまでのプロセスを振り返り、ご紹介させていただきたいと思います。

##### 【別日実施の背景】

これまでは、年次大会と同日に定時社員総会を開催しておりましたが、今回は会場の都合により、年次大会が 9 月 28 日（日）に実施されました。定時社員総会は、本学会の会計年度（2024 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日）終了後に開催する必要があるため、別日に行うこととなりました。また、移動を伴う対面開催は難しいとの判断から、完全オンラインで実施いたしました。

##### 【議決権行使のオンライン化について】

今回の総会準備にあたって、現監事の南津先生が本部事務局長時代に進めてこられた「議決権行使のオンライン化」を引き継ぎました。

メールアドレスをお持ちの会員の皆様には、以下の流れで議決権行使をお願いしました。

広報委員の井田先生により、学会メーリングリストを通して議決権行使依頼メールを複数回配信していただきました。

メールに記載されたリンクから、議決権行使フォームにアクセスして投票していただきました。（議決権行使フォームは学会ウェブサイトにも掲載しました。）

※メールアドレス未登録の会員には、封書にて議決権行使書を送付し、返信用封筒での返送をお願いしました。同時にメールアドレスの登録もお願いしております。

おかげさまで、第 15 回定時社員総会でも大多数の議決権がオンラインで行使されました。

この仕組みを整えてくださった前事務局長の南津先生、そして行使にご協力くださった会員の皆様に深く感謝申し上げます。

### 【定足数確保までの舞台裏】

今回の課題は、定足数（会員数の半数）を満たすことでした。年次大会と別日の開催であったため当日の参加者が限られ、事前の議決権行使が不可欠でした。当初は議決権行使数の伸び悩みもあり、「定足数に達しないと総会を開催できないのではないか」と、日々胃がキリキリする思いでした。そのような中、会長の山内先生から「まだ議決権を行使されていない会員の皆様にリマインドメールを送られてはいかがでしょう」とのありがたいご助言をいただき、議決権未行使の会員の皆様を抽出してリマインドメールをお送りいたしました。また、事務局メールが迷惑メールに振り分けられている可能性もあるとのことで、私の個人メールからも改めてリマインドを差し上げました。少しずつ議決権を行使してくださる会員が増えましたが、それでも定足数にはなお十名ほど足りない状況でした。そこで、会長の山内先生、副会長の吉原先生、監事の南津先生が、お知り合いの先生方に個別にご連絡くださるなど、お力添えをくださいました。おかげさまで、最終的には総会開催の1週間前になんとか定足数を満たすことができました。改めて、皆様の温かいご協力に心より感謝申し上げます。

### 【メールアドレス登録のお願い】

本学会では、活動報告、地区例会・分科会開催の告知などを、学会ウェブサイトおよびメーリングリストを通じてお知らせしております。つきましては、現在よく利用されているメールアドレスのご登録をお願いいたします。

登録は学会ウェブサイトの【会員情報変更届フォーム <https://james.or.jp/nyukai>】をご利用ください。また、登録済みにもかかわらずメーリングリストが届かない場合は、本部事務局（[office@james.or.jp](mailto:office@james.or.jp)）までご連絡ください。

本学会は会員の皆様のご協力に支えられております。今後とも本学会の活動にご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

---

## 2)学会誌の電子ジャーナル化にともなう投稿規定の改定および会誌公開規定の制定

学会誌編集委員 編集委員長 石上文正

このたび、本学会会誌 MEDIA, ENGLISH AND COMMUNICATION は電子ジャーナルへと移行いたしました。これに伴い、「会誌投稿規定(第1条～第19条)」を改定し、「会誌公開規定」を新たに制定いたしました(施行日:2025年10月26日)。本改定は、掲載論文の可視性と再利用性を高め、学術的貢献と社会的発信を加速させることを目的としております。会員の皆様には、以下の変更点をご確認いただきますようお願い申し上げます。

## ■ 電子ジャーナル化の背景と目的

近年、学術情報流通のデジタル化が急速に進展し、オープンアクセスによる研究成果の可視性向上が世界的な潮流となっております。本学会におきましても、会員の研究成果をより広く国内外に発信し、学術コミュニティへの貢献を強化するため、会誌の電子ジャーナル化を決定いたしました。J-STAGE を通じた公開により、検索性の向上、DOI 付与による引用の容易化、長期保存の確実性など、多くの利点が期待されます。

### 1. 投稿規定の主な改定点

#### (1) 会誌の位置づけの明確化

本会誌を本学会の正式な機関誌(電子版)として規定いたしました。これにより、学会の研究活動を代表する学術誌としての位置づけが一層明確になります。

#### (2) カラー図表・画像の掲載

電子版の利点を活かし、本文中にカラーの図表や画像を掲載できるようになります。これまで印刷コストの関係で制限されていた視覚的表現が可能となり、研究内容のより効果的な伝達が期待されます。なお、動画や音声ファイルなど容量が大きい資料につきましては、電子付録として掲載することもできます。

#### (3) 「招待論文」を「依頼原稿」に変更

従来の「招待論文」というカテゴリーがあまり明確でない点があったため、「依頼原稿」に名称変更し、カテゴリー内の内容の整合性等を整理しました。分科会活動の活動状況なども掲載できるようにし、学術的価値が高い論考のほか、会員の皆様の研究状況を発表する枠を新設いたしました。依頼原稿は査読の対象外とし、より柔軟な掲載が可能となります。

### 2. 新設された会誌公開規定の要点

今回新たに制定された「会誌公開規定」は、電子ジャーナルとしての公開方法、著作権の取り扱い、ライセンスなどを定めたものです。主な内容は以下の通りです。

#### (1) 対象範囲

会誌第 16 号(2026 年度発行予定)以降に掲載されるすべての著作物が対象となります。

#### (2) 公開媒体とタイミング

科学技術振興機構(JST)が運営する J-STAGE を通じて電子公開いたします。発行後、速やかに全文をオープンアクセスで公開し、エンバーゴ期間は設けません。これにより、研究成果が迅速に学術コミュニティに共有されることとなります。

#### (3) 著作権の帰属

著作権は従来本学会に帰属していましたが、著者に帰属することに変更いたしました。ただし、学会には公衆送信、複製、保存等を行うための非独占的かつ無償の利用許諾をいただくこととなります。これは、J-STAGE での公開や、将来的な保存・アーカイブのために必要な権利です。著者の皆様には、投稿時にこの点についてご同意いただくこととなります。

#### (4) クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの適用

掲載論文のオープンアクセス化が学術世界の趨勢となっています。そのライセンス表示として、J-STAGE はクリエイティブ・コモンズ (CC) ・ライセンスを推奨しています (「クリエイティブ・コモンズ」については「ウィキペディア」、本会 HP の「会誌公開規定 FAQ」等をご参照ください)。本会では、原則として、同ライセンスのなかの CC BY-NC 4.0(表示-非営利)ライセンスを適用いたします。これにより、読者は適切なクレジット表記を行うことで、非営利目的での自由な利用(複製、配布、二次利用等)が可能となります。なお、著者の申請により、CC BY-NC-ND 4.0(表示-非営利-改変禁止)を選択することも可能です。この場合、改変を伴う二次利用は制限されます。

#### (5) 著者による自己アーカイブ

著者の皆様は、ご自身のウェブサイトや所属機関のリポジトリ等に、掲載論文を公開することができます。その際は、書誌情報(論文タイトル、著者名、掲載誌名、巻号、発行年等)と DOI を明記していただき、可能な限り J-STAGE 版へのリンクを設定していただきますようお願いいたします。

#### (6) AI 学習およびテキストデータマイニング(TDM)

非営利目的での AI 学習やテキストデータマイニングは許可いたします。一方、営利目的での学習や解析を行う場合は、著者の事前許諾が必要となります。なお、CC BY-NC-ND 4.0 を選択された場合、改変や生成を伴う利用には制限がかかる点にご留意ください。

#### (7) 研究倫理と論文の撤回・訂正

研究不正や重大な誤りが判明した場合は、J-STAGE 上で撤回または訂正を明示いたします。学術的誠実性を保つため、適切な手続きに従って対応いたします。

### ■ 最後に

会誌第 16 号の投稿募集につきましては、別途ご案内申し上げます。また、会員の皆様からよくいただくご質問をまとめた FAQ 版 (HP に掲載予定) も作成しております。

本学会の発展と会員の皆様の研究活動の一層の充実のため、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、会員の皆様のご投稿をお待ちしております。

## 4. 東日本地区研究例会 活動報告および開催予定

### ◆第 107 回 東日本地区研究例会・第 21 回 英語教育・メディア研究分科会

今回の東日本地区研究例会と英語教育・メディア研究分科会の共催は、チエル株式会社様のご協力を頂き、2025 年 9 月 14 日 (日) に無事に開催されました。各発表内容は、以下の通りです。

第 1 部：招待講演 (14:05～15:05)

発表者：森本 俊氏 (玉川大学文学部英語教育学科教授)

発表題目：「英語コーチングスクール CM のマルチモーダル批判的ディスコース分析」

内容：

マルチモーダル批判的ディスコース分析（MCDA）とは、言葉だけでなく、映像・音声・身振りなど、さまざまな表現のモードを対象にする分析方法であり、Critical Discourse Analysis(批判的談話分析)とマルチモーダル分析を融合したアプローチである。各種表現モードの組み合わせにより、社会の見方や価値観が形づくられたり、権力関係や特定の考え方（イデオロギー）が広まり、強化されたり変化したりするが、MCDA はこうした仕組みを批判的に明らかにすることを目指している。

本発表では、英語コーチングスクール、プログリットのテレビ CM を例に、MCDA の枠組みを用いた分析が紹介された。具体的には、言語、視覚的要素(登場人物、視線、アングル、照明、色、小道具、衣服や外見、身体表現、空間・配置など)、聴覚的要素、時間的要素、グラフィック、社会的文脈を枠組みとして、本 CM が分析された。分析の結果、努力さえすれば英語ができるようになるという「英語観」や英語学習には正しい方法があるという「英語学習観」が前面に出る一方、日本人を主人公とすることでネイティブ信仰を前面に出さない手法をとっていることが示唆され、また所謂コンプレックス広告の手法を踏襲していることも明らかにされた。また、本 CM で表現されていないものを分析することで、CM で表現できない、する必要がない、あるいはしたくないものが浮き彫りになるとの示唆も得られた。

本 CM の分析は学部 4 年生のゼミの授業で扱ったこと、ゼミ生は本学会会員の稲永他(2017)と井上(2019)の論文 2 編を読んだ上で、MCDA を用いて任意の CM を分析するグループ・プロジェクトを実施したことも紹介された。結果、学生にとって、社会での英語への見方について新たな発見があり、メディア分析への面白さへの気づきが得られ、批判的思考力の醸成につながることも合わせて示された。

（文責：畠山 由香子）

## 第 2 部：会員発表 (15:25～16:25)

発表者：吉原 学氏(慶應義塾大学商学部・理工学部非常勤講師、株式会社マナビ・クリエーション代表取締役)

発表題目：「MALL システム（CaLabo MX）に ChatGPT を活用した総合型学習の実践報告」

内容：

本講演では、慶應義塾大学での授業実践を中心に、英語教育における ICT と生成 AI の効果的な活用による授業実践報告があった。吉原氏は 2025 年度春学期に、商学部および理工学部の計 5 クラス（約 120 名）を対象に、MALL システム「CaLabo MX」を導入した全 14 回の授業を実施した。使用教材は CEFR B1～B2 レベルの時事英語記事であり、授業は「リスニング→チャック・リーディング→音読→ライティング」というサイクルで構成されている。

CaLabo MX 上では教材配布、課題提出、学習履歴、小テスト、音読練習を一元管理し、誰がどの課題にどれだけ取り組んだかを可視化できる。正答率の低い問題は授業冒頭で解説を加え、短時間で効果的な復習を行う。また、音読課題では一定点数（80 点以上）を基準とすることで、生徒が繰り返し練習する仕組みを作り、主体的な学習習慣を促している。

さらに、ニュース要約課題では ChatGPT を活用し、①：自力で英語サマリーを書く、②：省略のない日本語で作成したサマリーを作成する、③：②で作成した日本語を「平易でわかりやすい英語に」と指示して ChatGPT で英訳し、①と③を比較検討するというプロセスを導入している。語彙・文体・書き手の表現意図を意識化させることで、表現者がより伝えたい内容を表現できるようにするためのツールとして、AI を活用し、学生の英語力増強を図っている。

また、AB Lish によるチャンク学習では、英語の語順で情報処理をしていくことをポイントとしており、語彙ポイントを青、文法ポイントを赤で可視化し、クラス全体で共有・ディスカッションすることで、理解を深め、音読等によって効果的なインプット活動を行っている。こうした実践は、ICT と AI を効果的に教授・学習ツールとして活用して、学生の英語力を総合的に伸ばす新たな英語教育モデルを提示するものである

（文責：中村 俊佑）

#### ◆東日本地区研究例会開催予定

第 108 回研究例会の開催を、2026 年 3 月 9 日（日）に予定しております。会場につきましては、決まり次第ご連絡いたします。

-----

#### ◆西日本地区研究例会・メディア&トランスレーション研究分科会・ビジネス英語文化研究分科会共催講演会 開催のご報告

発表題目：「翻訳者の役割のパラダイムシフト：生成 AI 時代におけるニュース翻訳の変容」

2025 年 7 月 26 日（土）14:00 より 16:00 まで、オンライン（Zoom）形式にて標記講演会を開催しました。講演者にウォール・ストリート・ジャーナル日本版編集長の西山誠慈氏をお迎えし、約 20 名の参加を得ました。

講演概要：

西山氏は、生成 AI 技術の急速な発展により、ニュース翻訳の現場が歴史的転換点を迎えている現状について、実務の最前線から報告されました。特に速報ニュースの分野では、AI 活用の浸透が顕著であり、報道ジャンルによっては完全 AI 翻訳の運用も開始されているとのことでした。従来の翻訳業務は、翻訳者が一から訳文を作成するプロセスから、生成 AI が産出した翻訳文の精度を見極め、微細な誤訳や表現の適切性を判断する高度な校閲作業へと移行しつつあります。この変化により、翻訳者の役割は「翻訳者」から「AI 翻訳のチェッカー」・「編集者」へと変容し、それに伴い求められる能力も広がりを見せています。講演では、accuracy と fluency の関係性についても言及があり、「文章のなめらかさがある時、正確性が犠牲になっている」という指摘は、AI 翻訳の評価において重要な視点を提供するものでした。また、AI には「分からない」という判断ができない本質的な限界があり、文脈や背景に適した表現の選択、文化的・社会的文脈の適切性の判断において、依然として人間の介入が不可欠であることが強調されました。

質疑応答：

本講演会では、事前に多岐にわたる質問が寄せられ、西山氏はそれらに丁寧に応答されました。主な論点として、各社の翻訳方針の違い、生成 AI のプロンプト使用法、AI 翻訳の倫理的課題、翻訳者の雇用構造の変化、翻訳教育への示唆などが議論されました。特に、AI 翻訳における責任の所在、政治家の発言など個人の表現特性を反映した翻訳の可能性、翻訳と編集の境界の曖昧化などについて、活発な意見交換がなされました。

参加者の反応：

参加者からは高い評価が寄せられました。特に、実務の最前線からの知見に触れることができた点、質疑応答の時間が十分に確保された点が好評でした。英語教育に携わる参加者からは、今後の教育方針への示唆が得られたとの声があり、「英語を日本語に訳すという従来型の授業ではなく、英語記事と日本語翻訳記事を見比べながら『言語』について考え・学ぶというスタンスで学生と向き合っていきたい」と述べていました。また、「機械翻訳の結果をただ受け入れるのではなく、意図が正しく伝わっているか、文化的背景や社会的文脈に照らして問題がない内容かを意識しながら活用できるよう指導していく必要がある」との指摘もなされ、AI 時代の言語教育や翻訳教育のあり方について考える契機となりました。

総括：

本講演会は、生成 AI 時代におけるニュース翻訳の変容という、まさに現在進行形の課題について、実務家の視点から貴重な知見を得る機会となりました。翻訳者の役割変化、AI 翻訳の可能性と限界、翻訳教育への示唆など、多角的な議論が展開され、参加者にとって今後の研究・教育活動に資する有意義な講演会でした。西山氏には、ご多忙の中、初めてのテーマでのご講演にもかかわらず、明快かつ丁寧に説明いただき、また充実した質疑応答の時間を設けていただいたことに、深く感謝申し上げます。

（報告者：武藤輝昭・南津佳広）

## 5. 研究分科会

今回、ご案内の研究分科会は Zoom での参加が可能です。初めての方も奮ってご参加ください。

### メディア英語談話分析研究分科会

#### ◆ご報告

・第 84 回メディア英語談話分析研究分科会

開催日：2025 年 6 月 21 日

場所：オンライン

参加者数：8 名

発表者：越智有紀会員、富成絢子会員、神徳和子会員

テーマ：Philip Seargeant 著 *The Art of Political Storytelling* 翻訳の読み合わせ 第 7 章（越智）、第 8 章（富成）、第 12 章（神徳）

・第 85 回メディア英語談話分析研究分科会

開催日：2025 年 9 月 6 日（土）

場所：オンライン

参加者数：9 名

発表者：亀本真朱会員、越智有紀会員

テーマ：Philip Seargeant 著 *The Art of Political Storytelling* 翻訳の読み合わせ

第 6 章（亀本）、第 11 章（越智）

内容：

第 84 回、85 回ともに、引き続き *The Art of Political Storytelling* の精読と翻訳を行った。言語の定義のみならず、原著の時代背景や現代の政治・社会情勢にまで議論が及び、学びの多い会となっている。この作業は翻訳のプロセスで言えば「下訳」の段階ではあるが、分担し読み合わせることで精度の高いアウトプットに近づけていると考えられる。

◆ご案内

・第 86 回メディア英語談話分析研究分科会

開催日：2025 年 12 月 6 日（土） 14:00-17:00

場所：オンライン

内容：

第一部 *The Art of Political Storytelling* の翻訳と読み合わせ（14:00-16:00）

担当：野口知美会員 第 9 章、井上みゆき会員 第 10 章

第二部 分科会活動の打ち合わせ（16:00-17:00）

第二部は分科会メンバーのみの参加となります。

参加希望の方は、宮崎康支<[myzk@kwansei.ac.jp](mailto:myzk@kwansei.ac.jp)>までお知らせください。開催 1 週間前に Zoom の URL をお知らせします。

メディア英語談話分析研究分科会

代表 宮崎 康支

-----

**新語・語法研究分科会**

◆ご報告

・第 167 回新語・語法研究分科会（6 月 14 日）

新語フォーラムでは、鈴木理枝会員（日本語→英語）、田中満佐人会員、井上泰代氏、三田弘美会員が発表を行いました。研究発表は、東海林康彦会員による「近年話題になったインターネット・スラングの発音や日本語訳の考察」で、まず *slang* の定義や歴史的背景が紹介され、続いて近年のスラングの発音や訳語に関する問題点が示されました。代表的な例として *Enshittification*（改悪化）、*OOMF*（友人やフォロワーの一人）、*Cheugy*（流行遅れ）などが取り

上げられ、オンライン辞書や Web 情報の不十分さが指摘されました。最後に、スラングを「新語」としてどう扱うか、発音の「正しさ」や記録の基準、寿命の短さなど今後の課題が提示されました。今回の発表は、インターネット・スラングの不安定さを考える上で重要な示唆を与えるものでした。

・第 168 回新語・語法研究分科会（11 月 15 日）

新語フォーラムでの発表者は、山内圭会員と三田会員で、田中会員の「GOAT」については、日本においての認知度が上がってきている語としての位置づけとし、三田会員がその初出や意味変遷について補足説明を加えました。二部では、丸山真純先生（長崎大学）に、「フィンランドの英語教育について学ぶー現地校視察を通して見えてきたこと」と題するご発表を頂きました。現地校での英語教育の実際や、CLIL（内容言語統合型学習）、Phenomena-Based Learning（現象基盤型学習）」の様子を、写真や動画を用いて具体的に紹介されました。特に「英語を学ぶとは、英語母語圏の英語運用を学ぶことなのか」という提言は、参加者に強い関心を呼び、日本の英語教育のあり方を考える上で重要な示唆となりました。これを受け、日本の英語教育について質問が寄せられましたが、大きなテーマで短時間では十分に答えきれない面もあるとのご指摘がありました。

なお、今回は Zoom Pro を用いた初めての開催となりましたが、東海林康彦会員が共同ホストとしての確にサポートしてくださり、滞りなく活発な議論を進めることができました。改めて御礼申し上げます。

（文責：三田 弘美）

◆ご案内

・第 169 回新語・語法研究分科会

日時：2026 年 2 月 14 日（土）14:10-16:00

場所：ZOOM（ID およびパスワードは出席予定者に直前に通知）

1. 新語フォーラム（14:10-15:00）
2. 研究発表(15:05-15:45) 山西敏博先生（秀明大学）から、4 種類の発表テーマをご提示いただきました。メンバーの皆さまからご希望を伺い、投票により決定いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

（次回の研究分科会は 2026 年 6 月 13 日の予定にしております。2026 年度（6 月、11 月）の研究発表ご希望の方は、ご連絡をお待ちしております）

新語・語法研究分科会

代表 三田 弘美

-----

## ビジネス英語文化研究分科会

ビジネス英語文化研究分科会では、例会にてご発表いただける方を随時募集しています。発表は30分程度（質疑応答含む）で、ビジネス英語などの実務的なコミュニケーションを始め、英語圏におけるビジネス文化、グローバル時代の英語など、幅広くビジネス・英語・文化に関するものであれば何でも結構です。発表ご希望の方は、発表題目と要旨（200字程度）を武藤（tmuto@kansai.ac.jp）までお送りください。

ビジネス英語文化研究分科会  
代表 武藤 輝昭

## 6. 新入会員紹介

このたび、大門ゴーフ 裕子様、中村 文人様より入会申し込みがあり、理事会にて入会が承認されました。

Newsletter で新入会員の方にご挨拶をいただくことによって、会員同士の交流を促進し、本会を積極的に活用していただき、会員の方々に研究の裾野を広げ、深めていただきたいと考えております。

この度入会をご承認いただきました大門ゴーフ 裕子と申します。専門分野は平和学(MA)とシステム情報学(MSc)です。10年間の北アイルランド生活で言葉の力に強い関心を持つようになり、主に北アイルランド紛争についての研究を行っております。本学会で多くの学びを得ながら、自己研鑽を重ねてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

大門ゴーフ 裕子（愛知淑徳大学）

中村文人と申します。専門はメディア研究で、とくに、国際紛争とメディアを中心に業績を積んでいます。新聞記者としての勤務を経て、ヨーロッパに三年ほど留学し、国際法（主に国際開発法と人権）とジャーナリズムをそれぞれ専攻しております。

本学会では、先達の方々と交流し、英語というレンズを通して、自らの知見を深められれば、と思っております。

中村 文人（愛知淑徳大学）

## 7. 2025 年度新刊テキスト、及び商品紹介（賛助会員 50 音順）

# 2026 年度 新刊案内



## WORLD TRAVELERS

A Learning Journey with Videos from BBC's The Travel Show



¥ 3,300 (税込 ¥ 3,630)

B5 128 pp. 全 14 章

978-4-7647-4243-7

## WORLD TRAVELERS

—A Learning Journey with Videos from BBC's The Travel Show

「ザ・トラベル・ショー」で巡る世界の文化と社会課題

浦口理麻・武岡由樹子・Tom Dillon 編著

BBC の人気旅行番組と広大な世界を旅する！

「イタリアの『死にゆく街』」「コンゴのおしゃれ集団サプール」等、臨場感ある美しい映像で世界の文化や各国が抱える課題とその取り組みを学びます。映像の理解を助けるリーディング、日本語のコラム、学生が能動的に取り組める発信の活動を用意しました。教授用資料には復習用の小テスト付き。

## SUCCESS ROADMAP TO THE TOEIC® L&R TEST

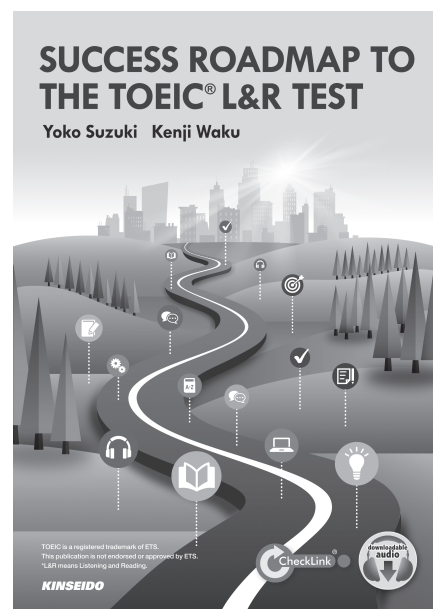
キャリアを拓く TOEIC L&R テスト全パート演習

鈴木瑛子・和久健司 著

TOEIC テスト対策で手に入れる

実践的な英語力と未来のキャリア展望！

1Unit で全パート網羅する構成。各 Unit で扱う「職種」に関連する頻出語彙や表現を繰り返し学び、ユニークな練習問題で TOEIC の出題傾向を理解しスコアアップにつなげます。教授用資料には小テストや模擬テスト等が充実。授業用 PPT も用意。



¥ 2,500 (税込 ¥ 2,750)

B5 160pp. 全 15 章

978-4-7647-4250-5



株式会社 金星堂

東京都千代田区神田神保町 3-21 (〒101-0051)

Tel 03-3263-3828 / FAX 03-3263-0716

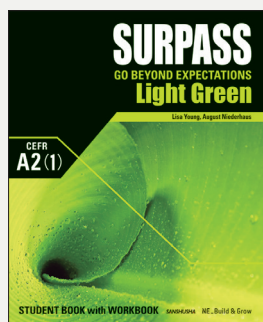
e-mail text@kinsei-do.co.jp

http://www.kinsei-do.co.jp

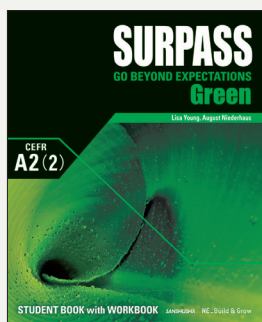


# 三修社 2026 年度新刊英語テキスト

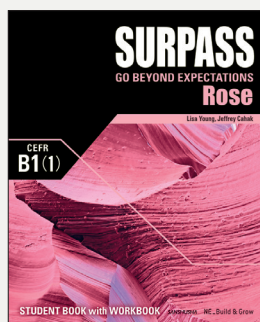
弊社 HP で内容見本や音声サンプルをご確認いただけます



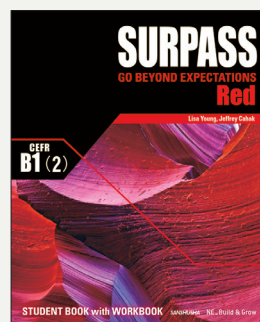
サーパス・ライトグリーン



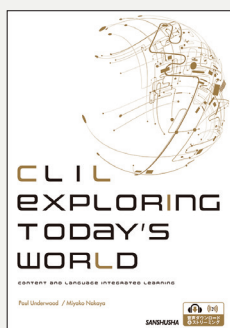
サーパス・グリーン



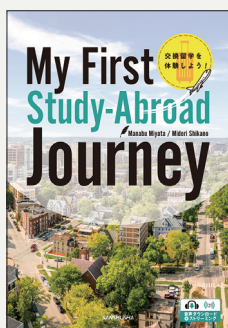
サーパス・ローズ



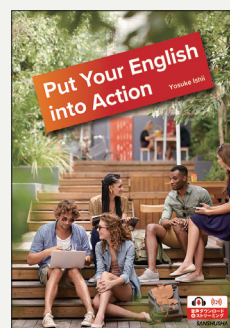
サーパス・レッド



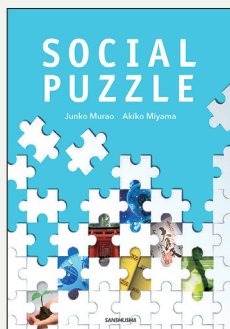
CLIL 英語で考える世界の今



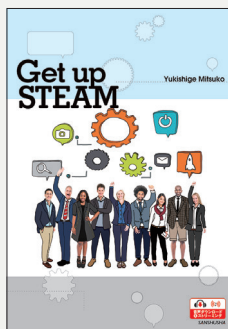
交換留学を体験しよう！



社会とつながる実践英語



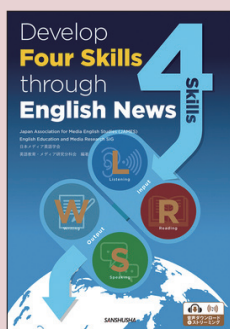
ソーシャル・パズル  
メディア英語で社会の断片をつなぐ



総合英語：科学・文化・テクノロジー  
の世界

〒150-0001  
東京都渋谷区神宮前 2-2-22  
TEL 03-3405-4511  
text@sanshusha.co.jp

**SANSHUSHA**



## ニュース英語で4技能を鍛える

日本メディア英語学会 英語教育・メディア研究分科会 編著

- ・英語ニュースを通して情報をインプット、アウトプットへの展開を目指した総合教材。
- ・ニュース記事の語彙レベルは、4000語でのカバー率60%以上（平均67.4%）、CEFR B2でのカバー率69%以上（平均75.9%）。
- ・科学や環境など幅広いジャンル選定。5W1Hの質問からYes/Noとその理由までアウトプットできるよう展開。

好評テキスト

B5判・104頁（全14課） 定価1,980円

# SEIBIDO 2026 NEW TITLES

## Live Horizons Book 1 [Student's Book]

コースブック・総合教材

角山照彦 Live ABC 共著 ●定価 2,970 円(税込)



## Live Horizons Book 1 [Workbook]

コースブック・副教材

角山照彦 Live ABC 共著 ●定価 550 円(税込)

## Live Horizons Book 2 [Student's Book]

コースブック・総合教材

角山照彦 Live ABC 共著 ●定価 2,970 円(税込)



## Live Horizons Book 2 [Workbook]

コースブック・副教材

角山照彦 Live ABC 共著 ●定価 550 円(税込)

## Generate English!

-Using Supportive AI for Active Learners-

AI・ライティング・スピーキング

AI と取り組むライティング&スピーキング

金丸敏幸 吉塚 弘 共著 ●定価 2,750 円(税込)

## College English Reboot: Basic Skills for Communication

大学生のための英語基礎カトレーニング 総合教材・リメディアル

角山照彦 Timothy F. Hawthorne 共著 ●定価 2,640 円(税込)



## Daily English for College Students Book 2

総合教材・コミュニケーション

〈場面・機能別〉大学生のための英語 Book 2

中西のりこ 平井 愛 Mary Ellis Jane Setter 共著 ●定価 2,310 円(税込)

## Science Spark

総合教材・科学

科学のひらめき

David Rear 著 ●定価 2,310 円(税込)

## Changing Times, Changing Worlds 2

やさしく読める社会事情 2 総合教材・社会事情

Joan McConnell 山内 圭 共著 ●定価 2,090 円(税込)

## CLIL: Discuss the Changing World 3

CLIL: 英語で考える現代社会 3

総合教材・CLIL・社会問題・ディベート・ディスカッション・社会問題

仲谷 都 油木田美由紀 山崎 勝 Bill Benfield 共著 ●定価 2,750 円(税込)

## GETTING THE EDGE FOR THE TOEIC® L&R TEST

TOEIC® L&R TEST 総合対策

語彙で高める TOEIC® L&R TEST スコアアップ 600 点



松本恵美子 浜田英夫 Sam Little 穂 寛美 福井美奈子 共著

●定価 2,530 円(税別)

## Write to Connect: English for Real-Life Communication

総合教材・ライティング

場面と機能から学ぶ英語ライティング

月足亜由美 梅原大輔 Chhayankdhar Singh Rathore 共著 ●定価 2,310 円(税別)

## Exploring World Heritage Online

映像でめぐる世界遺産

オンライン映像教材・世界遺産

塚野壽一 Robert Van Benthuyssen 共著 ●定価 2,750 円(税込)

## AFP World News Report 8

AFPニュースで見る世界 8 オンライン映像教材・ニュース



穴戸 真 Kevin Murphy 高橋真理子 共著 ●定価 2,970 円(税込)

## Meet the World 2026 -English through Newspapers-

メディアで学ぶ日本と世界 2026

総合教材・時事英語

若有保彦 編著 ●定価 2,420 円(税込)

## Grand Tour - Future Paths

新たな時代への飛翔

リーディング・社会問題

Anthony Sellick James Bury 堀内香織 共著 ●定価 2,310 円(税込)

## Taking with Your Patients in English 2

アニメで学ぶ看護英語 2

オンライン映像教材・看護

平野美津子 Christine D. Kuramoto 落合亮太 共著 ●定価 2,860 円(税込)

お問い合わせは

株式会社 成 美 堂

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22

TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490

URL <https://www.seibido.co.jp> e-mail: [seibido@seibido.co.jp](mailto:seibido@seibido.co.jp)

●見本テキストをお送り申し上げます。電話、メール、弊社のホームページ等からお申込みください。

## 語学4技能学習に特化した クラウド型のMALLシステム

### 語学4技能の 学習支援

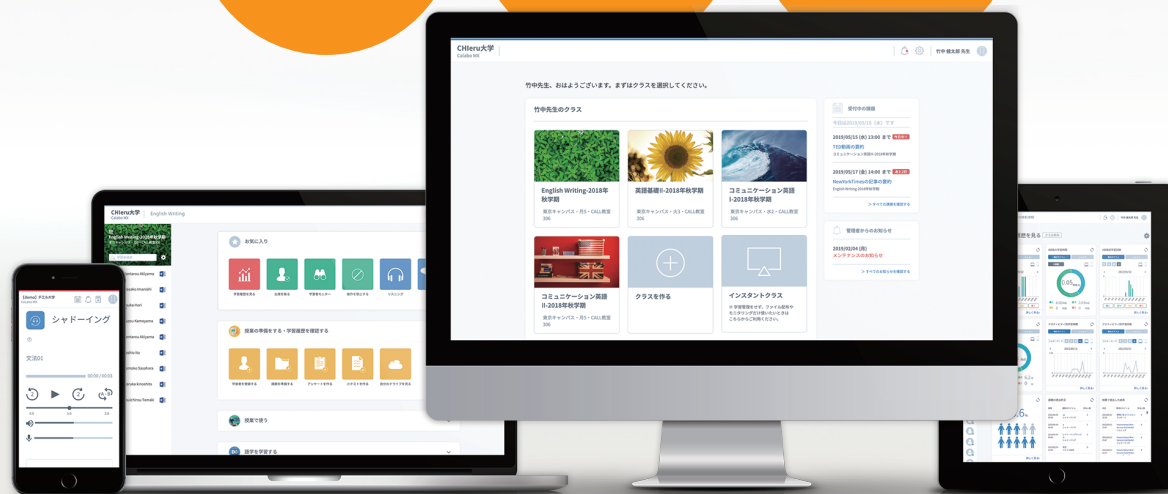
4技能に対応した  
学習支援機能が充実。

### 導入コスト 運用負荷の低減

導入コスト・運用負荷を  
抑えます。

### 学習履歴を 一元管理

PCもスマホも！  
学習した内容を一元管理。



MALLとは、“Mobile Assisted Language Learning”の略。ノートPCやスマホなど可搬性のあるモバイル端末を利用した語学学習を指します。

### 語学4技能の学習に対応した豊富なアクティビティ

AIを活用した  
機能も搭載！

### 学習履歴を一元管理



- リスニング
- シャドーイング
- ディクテーション
- 部分ディクテーション

音声速度や音量の調整、A-Bリピート  
などリスニングに便利な機能を搭載。



- シャドーイング
- レコーディング
- 発音矯正\*

シャドーイングや読み上げ音声録音など。  
音声認識により、一部のアクティビティで  
自動採点を実現。



\*ライセンスの形態により、  
ご利用できない場合があります。



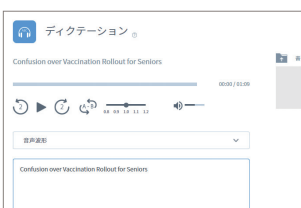
- リーディング
- 英文要約
- 語彙クイズ

リーディングの補助として、単語の早引  
きや「My単語帳」への登録、習得済み単語  
の色分けが可能。



- ディクテーション
- 部分ディクテーション
- 英文スクリプト要約

ディクテーションでは聞き取った英文を  
書き取り、その内容の自動採点を實現。



4技能別、学習者別、  
クラス全体の集約など細かい単位で  
履歴を参照可能です。





アジアの“本当の今”をお伝えする、  
日本経済新聞社の英文メディア「Nikkei Asia」  
ニュースを通じて学生様の好奇心を刺激し、  
グローバルな視点を養うお手伝いをいたします

世界のトップ30大学のうち8校が、  
アジアでも特に複雑な国々の政治や政策に関するインサイトを活用しています

出典：QS World University Rankings 2026

詳しくはこちら



お問合せ：

日経メディアマーケティンググローバル事業室 Nikkei Asia 担当  
nikkeiasia@nikkeimm.co.jp

日本メディア英語学会会報

2025 年 11 月号（通巻 150 号）

発行：一般社団法人日本メディア英語学会

〒718-8585 岡山県新見市西方 1263-2 新見公立大学健康科学部内 山内 圭 研究室気付

TEL: 0867-72-0634（代表）

URL: <http://james.or.jp>

Email: [office@james.or.jp](mailto:office@james.or.jp)

発行人：山内 圭

編集人：三田 弘美